

# E-5 瀬戸内海島しょ部の生活環境に関する基礎調査—愛媛県ソ—ンの場合—

## (4) 生活環境評価

○田中幸恵 桃山学院短大 佐々木ひさ子 松山東雲短大 大原早苗 宮内貞子  
広島女学院短大 富士田亮子

目的 本報では、(1)の目的に基づき、架橋島住民の生活環境に対する評価を調べ、対象地の持っている特性について、調査・検討を行なった。

方法 生活環境施設の現況は、市町村統計と現地踏査により調べ、これと併用して調査票配布方法をとり、住民の生活環境に対する評価を聞いた。評価内容は、①安全性②保健性③便益性④快適性・文化性で評価の仕方は三段階法とした。回収部数1481部、有効率はほぼ100%である。

結果 1)三島に共通して不満足度の高いものは、—保健性—医療施設、蚊やハエ、—便益性—中学校・高等学校への通学、駐車場、公衆便所、—快適性・文化性—図書館、老人用施設、スポーツ施設、娯楽施設に対してである。これは、関連施設が少なく、場所が1〜2の中心集落に集中していること、質的に不十分なものがあること、施設があっても必ずしも十分に使いこなされていないことなどが原因と考えられる。2)その他、島毎に不満足度の高いものをみると、大三島は—保健性—大浴場、台所がみ、—便益性—日用衣料品、—快適性・文化性—クリーニング、伯方町は、—便益性—ポストや郵便局、農協、大島は—便益性—日用衣料品、ポストや郵便局、—快適性・文化性—クリーニングに対してである。これらのことから、伯方島は都市的性格が強く、大三島は農村的性格が強く、大島は、兩者の中間的性格を有していることがうかがわれる。3)以上の不満足度は、各島とも施設から遠い集落ほど強くなっている。